



松茂町立喜来小学校で体験学習を実施しました。

〈大気環境担当〉

保健製薬環境センターでは、一般環境の大気の状態を県内各地の観測局舎で測定しておりますが、よりきめこまかい地点の測定を行うために環境大気測定車「しらすぎたいき君」での測定を行っています。今年の7月から9月には環境大気測定車を松茂町立喜来小学校に設置しています。

そこで大気の測定状況を見ることができるこの機会を利用し、松茂町立喜来小学校の5年生44名を対象に、7月16日に徳島県（環境管理課）主催『とくしまの「あおぞら発見」学習事業』を開催し、体験学習を取り入れた授業を行いました。

授業内容

1. 環境大気測定車の見学
2. 酸性雨について
3. 自動車の排気ガスについて



「酸性雨等の pH の測定」



「環境大気移動測定車の見学」

環境大気測定車の見学では、測定している項目のほか、社会問題となっている微小粒子状物質（PM_{2.5}）に関する講義のあと、車の中の測定機器の見学を行いました。

酸性雨についての授業では、酸性雨の原因について説明するとともに、児童が採取した雨やジュースなどの pH を、pH 試験紙、BTB 溶液を使用して測定しました。

自動車の排気ガスについての授業では、自動車やエネルギーの使用に伴って大気汚染物質である窒素酸化物、硫黄酸化物などが排出されることを学習するとともに、気体検知管を用いて、ビニール袋に採取した自動車排気ガスの中に含まれる大気汚染物質の濃度を、検知管の色の变化で調べました。

これらの大気汚染物質の濃度が高くなると、光化学スモッグや酸性雨、地球温暖化の原因となることから、環境にやさしい乗り物や節電について、ひとりひとりができることを考えてもらいました。学習によって芽生えた大気環境保全の意識を、これからの日常生活で活かしてもらいたいと思います。



「自動車排気ガスの測定」